

Combined Fleet Girls COLLECTION FAN BOOK



おしつこれくしょん 駆逐艦編 六

PISS-COLLE DESTROYERS VI

Volume 23 for ADULT ONLY

ある夜の駆逐艦・海防艦LINE

shimshshshshshshshshsh しまっしゅしゅしゅー！

fbk_11dg ふぶつきゅきゅきゅー！

Cloudy05 あんたは乗らなくていいから！

fbk_11dg 叢雲ちゃんに冷たくされると興奮するカラダになっちゃった♥

Sagirin

CD_KUNASHIRI へんたいがいる…

3Sd_19dg_Ayanami ごめんね狭霧ちゃん国後ちゃん 吹雪ちゃんちょっとアレだけど
悪い子じゃないんです…

AmaMist20 こりゃ噂どおりだなあ で、何なんだい

fbk_11dg おほん

えー最近、新しく顕現した駆逐艦や、私たちのように第二次改装を受けた
駆逐艦、それにかわいいかわいい海防艦の子たちもずいぶん増えました
で、久々にやります

Kissa30 ハダカのお・つ・き・あ・い♥

Mutsukinyan 今回は大勢呼んだにやしい！

sznm ｷﾀ——(——(——(——((°▽°)))——)——)—— !!!!!

Etorohu え？ え？ なんですか？

Kasumi ああ、悪い予想が当たったわ……って、まさか海防艦も脱がすつもり!?

NeueJahre01 それがのう旗艦殿

以前の顛末を聞いた占守が大いに乗り気でな

Kasumi えっ

shimshshshshshshshshsh 海防艦は度胸！ 何でもためしてみるっす

Sadosama おう！ 佐渡さまの尻くらい好きなだけ見てけってな！

fbk_11dg うへへへへへ……いたいけな海防艦ちゃんの割れ目から出るおしっこ……

Cloudy05 ロリコン駆逐艦の妹なんだが、もう私は限界かもしれない

Morgenwind な 何なのよこの爛れっぷり 神風姉も春風もこんなことやってたの？

mtw あ……あの……朝風さんや松風さんになら……松輪は……

Matz_dg07 いやあ参ったな 僕は決してそういう趣味では無いんだが……

tsu_shi_ma す・け・べ

Kasumi なんかもう……すきにしなさいな……あたまいたい

Micchie 諦めなさい霞……ここはこういう艦隊なのよ……

Arashio_Victory でも明らかによくわかってない子がいるわよねえ

Kissa30 そういう子を手取り足取り腰取りエスコートするのも楽しみでしょ？

Arashio_Victory うふふふふ、悪いお姉さんね♥

May_Sacchan うっへへ、成長したふみちゃんチェックしちゃうぞ！

FumiFumi 見せ合いっこ楽しみー

Sagirin ……びっくりしたけど

でも なんだか楽しいかもしれません

女の子になったらこんなことができるんだなって 私……

fbk_11dg 狭霧ちゃんをね どうやってお迎えしようって暁ちゃんや連ちゃんと相談
してたの それでもうありのままの私たちを見せようって

Akatsuki_Lady 暁のほうがここではお姉さんですもの 任せなさい！

Sagirin ……うん 恥ずかしい……けど、よろしくね暁ちゃん、みんな

Etorohu えええええっ!?! は、はだかになるんですかあ!?!?

03 fbk_11dg うへへへへへへへへへへへえ……

神風型二一番艦

朝風

(旧・第三号駆逐艦)

下着姿

如月「どう？朝風ちゃん。ブラの付け心地」朝風「最初はみんな乳バンド
 しているからびっくりにしたけど、今じゃ何もつけずに歩いたりできないわ
 ね。昔の人はおおらかだったのねえ」松風「あっさり」朝風「なによ、
 に馴染んだよな、姉貴。それにしても生意気な下着だなあ」朝風「なによ、
 文句つける気？」旗風「でも、とでも可愛いです、朝風さん。旗風にはまだ
 こういう肌着は早いかしら」松風「君はもう少し自分の発育具合を客観的に
 見るべきかな……」

神風型四番艦

松風

(旧・第五号駆逐艦)

朝風「ま、あんなのすつきりしたカラダにはそういうのでいいわよね。いつ
 そ乳バンドいらないんじゃない？」松風「うるさいな、駆逐艦はスマイルで
 なんぼだろ。姉貴こそ過積載しやすいんだから気をつけなよ？」吹雪「まあ
 まあ落ち着いて」旗風「松風さんも可愛い……」



胸部装甲・陰部

松風「……な、何だよ、何か言えよ姉貴」朝風「あんたこそ、ふ、普段の余裕はどこ行ったのよ」吹雪「ああ。船神さまありがとうございます、松風くんをこういう身体つきの艦娘にしてください」叢雲「また五体投地してる」如月「でもすごく……いいわ。控えめなお胸とかまだ柔らかいお毛毛とか」



睦月「おおお……朝風ちゃんすつごくえつちな身体にや」吹雪「ぺろぺろしたい。ぺろぺろ」天霧「すげえなふふ姉……いや、でも確かに柔らかいなあ。オソナのカラダで感じた」朝風「あん」狭霧「どうせ狭霧は貧相だもん……」朝風「あふん」松風「容赦なく撫で回す君たちもさすがふぶぎちの妹だなあ……」旗風「大丈夫かい？ ほら、鼻血拭いてやるよ」旗風「ごめんなさい、その、興奮……してしまつて。松姉さんの気持ち、少しわかりました」松風「な、何を言うんだいきなり!？」

性器

朝風「松風らしくもない。堂々としなさいよ私のことオカズにしてるなんてとづくに知ってんだから」松風「あ、が」朝風「別に、私もその……だから、おあいこよ。こういうの艦娘じゃ珍しくもないんでしょ？」荒潮「そおねえ。荒潮もゆうべ朝潮姉さんでしたわ」満潮「何かムアウトしてんのよ!?」朝風「だから……ほ、ほら、好きなだけ見なさいな」松風「かはっ」皐月「うわ、すっごいえっちい……夕張姉ちゃんより大人っぽい」松風「さ、さっちゃんもそんなこと……えい、もう指挿れたり匂いかいだりするからな姉貴!」朝風「ど、どうぞ」松風「……うわ」潮「あ、女の子の声出した。可愛い」松風「……こんなに広がるんだ。姉貴……すごい、生きてるって……感じ」



自慰

朝風「あ、あ、あつ」松風「姉貴のは……ごらんとおり、やかましいんだ」皐月「はえー、すっごい声おつきい。なんか戦艦みたい」満潮「どういう感想よそれ……えっ、三本挿れちゃうの……」荒潮「その指、松風くんだと思ってるのね」朝風「んい、旗風……あ、朝潮姉さんの白いのがとろとろ……」松風「僕の……は、花摘みでそんなに、興奮したのかい……?」

放尿

吹雪「やったあ! おしっこ!」松風「くんのしっこ!」松風「何だよそのテンションは!?」文月「だって、海ではいつもひとりでするし」皐月「見たいな!」松風「うう……いいよ見せてやるよ! いっぱい出るからな! かかるぞ!」んっ」睦月「おおおほんとにや、じよろろ!」狭霧「やだ、可愛い……」暁「さ、狭霧?」狭霧「女の子のおしっこ、えっち可愛い!」朝風「……」霞「真顔だ……」



時雨「ここがあなの女のハウスか」松風「わあっ!? どこから湧いて出たんだ」時雨「最初からいたよ。黙ってただけで」
 漣「いやー、面白そうだったんで連れてきちゃった☆」松風「くっ……こいつに見られるなんて」時雨「何だよ、怖気づいたのかい」朝風「あんたたち仲悪いの？」天霧「いやいや、あたしたちはむしろソロモン海を駆けずり回った戦友さ。川内さんの指揮下で。今は……キャラが被つちまつたんだな」
 時雨・松風「ふん」漣「ま、すでに姉の手でおまんこ広げられてる状況なんですけどね松風きゅん。クリモびらびらも未発達で超メシウマ！」満潮「時雨……そんなに興味あるの？」時雨「う、うるさい」朝風「……私のごオカズにして、ここ、いじるんだ」松風「わ……悪いかよ！ 今から姉貴の……は、排水見ているからな！」

「同……」旗風「あの……朝姉さん、どうしてそんな格好で？」朝風「えっ……だつて、海の上で腰を下ろしたり髪とか服とか邪魔になるし。たしなみよ」如月「……ええと朝風ちゃん、結果的に少し……大胆な格好ね」睦月「如月ちゃんをこんな風に照れさせるなんて、侮れないのね」皐月「こんなえっちなおしっこの出しかた、初めで見る……」松風「……」朝風「え、え、え……？」吹雪「き、気にしないで朝風ちゃん！ おしっこのしかたなんて自由だもん！」旗風「そ、そうです！ 朝姉さんらしくって素敵です！」霞「フオローになつてるの、それ……」松風「姉貴……シコい」

荒潮「クリ派なのねえ、松風くん」綾波「気持ちよさそう……」吹雪「綾波ちゃん、ムラムラする？」手伝「おつかか？」綾波「ひ、ひとりできまますっ」朝風「わ……私のお小水でそんなに……？ 変態」松風「あ……っ、姉貴だつてさっきあんなに……あつ、ひんツ」狭霧「イッてる……可愛い……えっち可愛い」天霧「おいおい……漣「すっかり目覚めてしまいましたよ。君たち、似たもの同士なんだな。……再会できて、よかったね」

神風型五番艦 旗風

(旧・第九号駆逐艦)

下着姿

時雨「綺麗だよ。旗風」旗風「あの……時雨さん、どうして肌着の上に羽織を」松風「それはね、こいつが変態だからさ。まったく人の妹に何してくれるんだ」時雨「君だって鼻の下伸ばしてるじゃないか」旗風「やだ……恥ずかしい」吹雪「おふっ……なんか新鮮。ずっとこんなことやつてて初めて聞いたかも！旗風ちゃんもう一回！」旗風「え、ええっ？」叢雲「バカはほっときなさいな」漣「いやあそれにしても大い人っぽい物腰に比べてこの絶妙に『妹』っぽい身体つきとお子様ブラとほんっ。捲りますわあ」旗風「ううう、恥ずかしい……」時雨「……ぐつと来るだろ？」松風「……否定はしない」

胸部装甲・陰部

吹雪「フオオオオオ……私のおいなりさんが」霞「どこよそれ」叢雲「旗風の名誉のために言っとくと、蘭印で私たちといっしょに敵艦隊撃滅の戦功を立てた子よ」吹雪「もちろんよく覚えている。そんな武勲艦ちゃんのはよほよのおっぱいと薄いお毛毛どかわいい割れ目……うへへへへへ」狭霧「うへへへへ」天霧「狭霧!？」



性器

旗風「あの、み……見えませんか？」時雨
 「何が？」旗風「は、旗風……の……」
 意地悪しないでえ……」如月「よく見え
 るわよ、ピンク色の可愛らしいおまんこ」
 旗風「ふええ」朝風「やめなさいよみん
 な……」でも、おほん、き、綺麗ね」連
 「目が泳いでる」皐月「びらびらはまっ
 つんより少し大きいけど、ほんと、ピン
 ク色だね」春風「色白だから、西洋の人
 の大事などころみたいでしょう？」旗風
 「ははは、春姉さん!!?」やだ、わたくし
 春風「あつ、そのまま……ね、春風にも
 もつとよく見せて？」旗風さんの、わた
 くしはとつても好きだから」旗風「あふ
 吹雪「あつ、軽くイッてる……尊い……」

放尿

旗風「は、春姉さん、時雨さん、こんな……」時雨「君の……海で見たことが
 あるけど、とてもその、よかつたから」松風「こりやさみちゃんには見せられ
 ない惨状だな」朝風「あんたもすんごい顔してるわよ」春風「ね、お願い、も
 う我慢できなくなつて」旗風「あ、で……出ます」如月「ああ……しよるしよる
 出てる薄黄色のおしっこ、とつてもいやらしくて可愛い」荒潮「春風ちゃんに
 しとしと、しとしとかがつて、飲んでる。いいわねえ……」旗風「春姉さん、
 お顔に……」春風「はあ、はあ、温かくて美味しい……もつと、もつとかけて、
 貴女の新しい命をわたくしに……ぐずつ、感じさせて……」松風「あはは、お
 しっこ飲んで、うっ、泣ぐなんて」朝風「ううううう」

自慰

荒潮「旗風ちゃんはナカ派なのねえ。朝風ちゃんか春風ちゃんが教えたの
 かしらあ？」旗風「いえ、その……」時雨さんが、遠征の小休止中、岩礁
 の陰で、してるのを偶然、見て」松風「オイコラ」満潮「あんたねえ……」
 時雨「……仕方ないじゃないか、外ですごく……もてあますこと、君たち
 だつてあるだろ!?」満潮もこないだ」満潮「だつただ黙んなさい！」春風
 「旗風さんいどころ……」旗風「き、きもち、いくでつ」春風「可愛い
 ……わたくしも、貴女を想つてわが身を慰める夜があるのですよ」旗風
 「っ、あつ、あつあぐっ」

下着姿

漣「あっ」「天霧」ど、どした「漣」濡れた「叢雲」……漣「……漣」わりとその、鍛えてる系女子も性癖ツス「潮」潮「朧ちゃんのこと大好きだもんね」漣「う、潮たやも、大好きだお!」天霧「朧、船渠で見かけたときははけっこいい身体してたな。錬成に付き合ってくれるかね」潮「朧ちゃん、最初は……人見知りするけど、朧ちゃんも、天霧ちゃんのこと気にしてたから、声、かけたげて?」きつとすぐ友達になれるから」吹雪「そして肉と肉のお付き合いを……はあはあ」叢雲「遺憾だわ……一部の姉妹が」

胸部装甲

天霧「じ、じろじろ見るなよお……」如月「カタいだけじゃなくて、お胸はちやあんと柔らかいのね」皐月「あつ、ほんとだ。いいなあ」荒潮「先っぽもお、ぶつくりして、桜色でえ、え・っ・ち♥」天霧「ぺ、ぺたぺた触るなつてえ」漣「あー無理っす。この反応どツボ」霞「裸に剥かれて撫で回されたら、普通はこうなるわよ……」

陰部

初春「これは、烏の濡れ羽色のような……なかなか、そそののう」綾波「私や吹雪ちゃんより、その……多くて、ちよつと羨ましいです」天霧「なんで姉貴たちに、し、下の……を褒められてんだろあだし」吹雪「ご、ごめんね……ほら、私たちも」綾波「ど、どうぞ」叢雲「あんたたちは見せなくていいから!」はあ、綾波まで……吹雪「ほら、叢雲ちゃん」の銀色のお毛毛、素敵でしょう?」叢雲「きやああああ!」松風「……ホントすごいな、特型」



綾波型十六番艦 狭霧

下着姿

こほん。潮が説明しますね。狭霧ちゃんは天霧ちゃんの妹で、朧ちゃんのすぐ上のお姉ちゃん。そしてあの戦争の前、狭霧ちゃんと連ちゃん、朧ちゃん、沈むまで先代の第十駆逐隊を組んでいたんです。それだけが第三十、第七、第六駆逐隊に移って……沈むまでよりも、長いあいだ。だから連ちゃんも朧ちゃんも、狭霧ちゃんの顔を見るなり泣いちゃったくらい、ずっと待っていたんです。ね、今もこんないい雰囲気……狭霧ちゃんの下着、綺麗で少しえっちな、ドキドキしちゃう……。

胸部装甲 陰部

ぷらちなぶるんどつていうんでしようか、翔鶴さんと同じ銀色の……下の毛ついで素敵ですよね。潮、改二になる前は朧ちゃんみたいに……その、つるつるだったんですけど、狭霧ちゃんはまだ綺麗に生え揃って、お姉さんっぽい。あの、潮ほど大きくないんですけど、ぱふいーにつぶるでしたっけ？乳輪が大きい、すごく、えっちなです。あの、ごめんさい、はしたないことばかり……。



性器

女の子の……おまた、人によつては気持ち悪いと思うかも知れないですけど、私は、みんなそれぞれ形が違って、その子自身でもあつて、素敵だなんて思うんです。狭霧ちゃん色白だから、内側の赤みがかつたところ、映えて、すごく、えっちだし……ふふ、暁ちゃん、興味津々です。

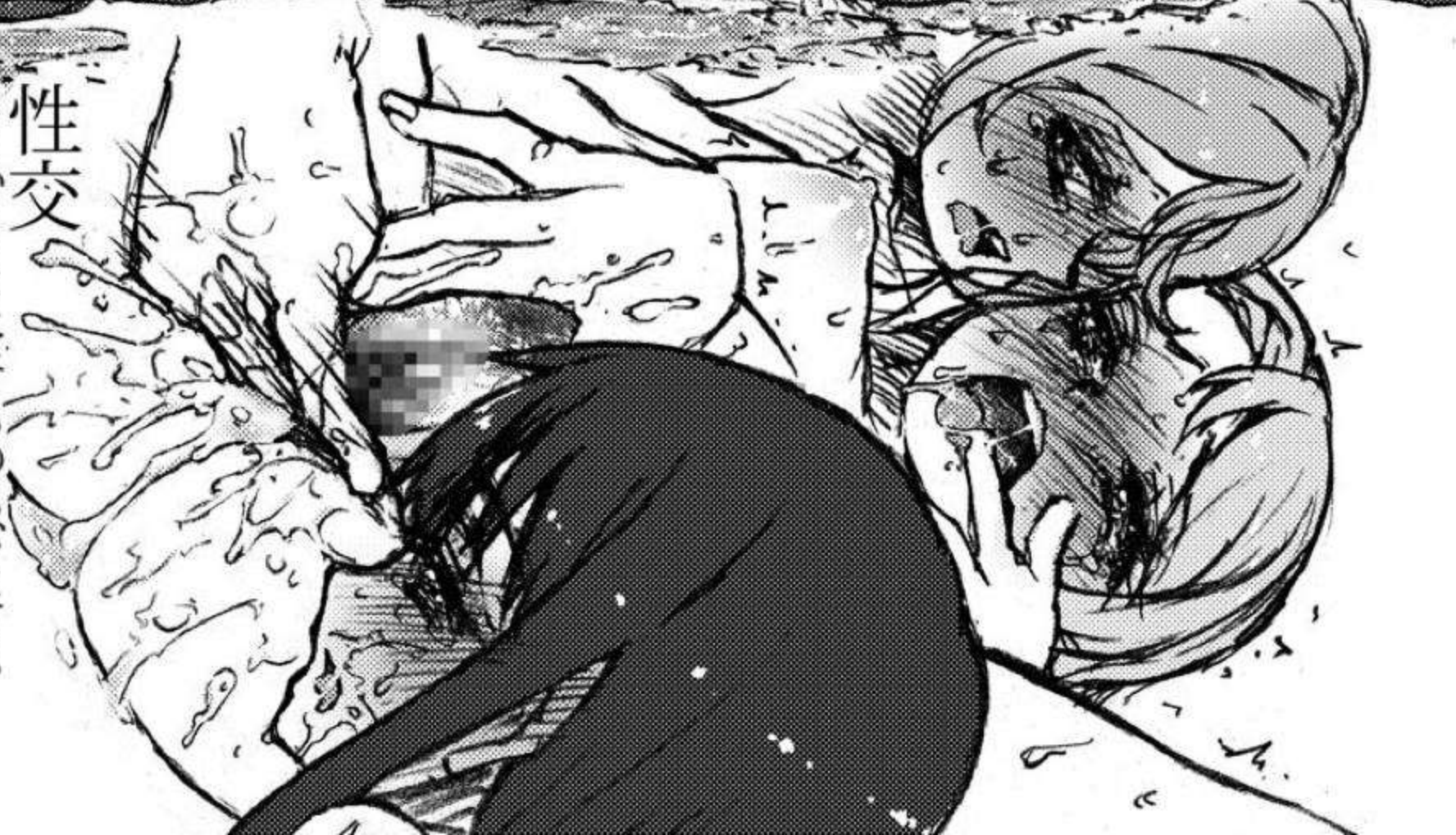
放尿

ああ、いいな……。先代第十駆逐隊、再会の記念に、並んでおしっこ。これはもうみんなしますよね。七駆でもやっただけ……漣ちゃん、やっぱり恥ずかしそう。意外ですか？ たしかにちよつと変わったことを言うけど、そんなにあつちな子じゃないですよ。ああ、でも三人とも、気持ちよさそうにおしっこを出して、嬉しそう。女の子がおしっこするところ、どうしてこんなにえっちなんだろ。



性交

こういうことをするのも、とても自然だと思ふんです。だって、こんな姿になつて再会できるなんて思つてもみなくて、お互いのこと、もつと知りたいって、昔、すぐに離ればなれになつちやうたなら、当然で……ごめん、なさい、涙が……。ぐす、漣ちゃんは、その、上手いんです。狭霧ちゃん、もう何度もイッてかわいらしい。今度は、ずっと一緒にいられたらいいな。



吹雪型十番艦 浦波

下着姿

浦波「綾波にも聞いていたんですけど。吹雪姉さんたち、本当にこんなことやってたんですね。叢雲姉さんまで……」叢雲「真面目な妹の視線が痛い」浦波「いえ、でも、新入りの務め、果たします！ あ、下着……は、こんな感じですよ」睦月「おおお、純白にワンポイントのおりボン！ 基本だけとかかわいいにや！」如月「特型の子は、こういうシンプルなのが似合うわねえ。あつ、悪い意味じゃないのよ？」

胸部装甲・陰部

浦波「ふ、吹雪姉さん!? なんかにヘンタイっぽいんですけど!?」吹雪「よいでわなにか、よいでわなにか」磯波「柔らかい……」
 浦波「い、磯波姉さんまで!?」あし「松風「うわあ……」」
 乳輪もふっくり」浦波「い、磯波姉さん

磯波「えい♥」浦波「ひゃあ!?」狭霧「浦波さん、天霧さんと同じくらいお毛毛が濃いですね」綾波「つやつやしててかわいいです」連「ロリ陰毛マジ尊い」浦波「そ、そんなジロジロ見るの、ダメだからあー!」痛ッ、引ッ、張らないでえ」皐月「ご、ごめん。なんかうらやましくてつい、如月「ふふ。もっとたくさん生えるように、たくさんエッチしましょね」



性器

山風「ど……どう……？」荒潮「ええ、よく見えるわ。お豆さんの皮も、花びらも、ちっちゃくて隠れてたけど、こうして広げれば、山風「子供の……おまた、でしよう。別に、本当のことだから、気にしないで」荒潮「うん……」時雨「山風がこう言うときは、本当に大丈夫だからね。……僕たちこそ、引きずりすぎていたのかもしれない。僕が四水戦に入る少し前だった。山風の行方がわからないという話が伝わってきたのは、そのころは隊も違ったんだけど……この姿になって、海風たちともまた顔を合わせて、でもずっと山風は来なくて。江風も二次改造に馴染んだころに、とうとう……海風や、あの白露があんなふう泣くのを見たのは初めてだった。みんな僕も気づいたら涙が止まらなかつた。みんな、心にとげが刺さったままになってたんだと、そのとき……わかつたんだ。山風。この先、きみをひとりにはしない。絶対に。姉妹で、そう決めただんだ。」

自慰

山風「ひとり……するの、身体が、ここに……あるの、いつぱい……わかつて……気持ち、よくて、すき」荒潮「もっと……よくなりたい？」山風「うん、教えて、荒潮」荒潮「こう、力入れたり、抜いたり、場所を変えたり……」山風「ありあつ、はつ」時雨「よかつた。打ち解けたみたいだ。」満潮「いい、いいの……かしら」

放尿

松風「ぐすつ……な、泣けること言いながら、やることこれだもん」山風「いいの……」あたし、時雨姉や海風姉に、こうして、させてもらうの、好き……だから「時雨」「山風、いいよ」山風「ん……」荒潮「ああ……山風ちゃん、いつぱいしー出して、気持ちよさそう」狭霧「暁ちゃんみたいなかわいいおまたから、しーつて出るおじっこ、すぐくえつち……」暁「……今度、させてあげてもいいのよ？」

夕雲型十三番艦 浜波

下着姿

うー……。順番からいって、こうなることは、わかってた、けど……。ちよつと、あんまえつちな目で浜ちゃん見ちゃダメ！……。いや、藤波もダメ！……。独占とかそんなじゃなくでえ……。えー、浜ちゃん……。いいの？……。う……。そりゃ……。藤波も……。見たいよ。ふ、藤波ののも？……。え？……。ええ！……。能代さんと鳥海さんが焼き増し……。わ、わかつた。ムツッ、姉もつとえつちから二人とも、もお……。あ、なんか……。かわい、ばんつだね。夕雲、どんな顔してたか想像つく。しようがないなあ。……。能代さんが選んだの!?。うわ、なんかすぎ！。すっかり色気づいちゃって、もお……。……。つて朝霜ちゃん、さつきからかぶりつき

胸部装甲・陰部

は、浜ちゃん、イヤなら無理しなくていいかんね、ほんとい本当にえ!?。いや、藤波は全ツ然へつちやらだよこんなの、でも浜……。あ、ちつちやいけど、……。うん……。おっぱい、ちつちやいけど、……。かわ、いい。藤波も、うん、おんなじくらい。仕方ないよね、駆逐艦だし。夕雲姉や長波姉がデカすぎるんだよ！。……。あ……。そこ濃い……。うん、そこはね……。藤波のほうか少しいっぱい生えるって！。……。お毛毛、柔らかか



性器

ね、ねえ、ほんとに……いいの？ 藤波、その、
 もう……あつ……これが、浜ちゃんの……その、
 そんなの言えないよ！ ええ……うう、浜ちゃん
 の、ま、まんこ……よく見える、よ……は、
 浜ちゃんの意地悪！ え、濡れて……興奮、して
 るの？ ……ふうん、藤波に向かって、まんこ
 広げて、触られて、興奮……してるんだ。えっ
 ち……クリもびらびらも、全然まだちっちゃ
 いのに、こんな真赤にして……ホラ、お汁
 が……こんなについたよ……ずっと……うええん
 こん……したかったんだよ……うええん……

放尿

ごくり……あ、あんだよ、あたいがジョンベンに興味もつたら悪いかよ！
 あたいの姉貴でさ。あんま、昔のごとは覚えてねんだけど、もともと
 三三三にいた涼波が沈んで、代わりに新しく入ったのが浜波らしいん
 だ。それで、ブルネイへ帰ってこなかったんだ。それで、浜波はあたいや
 藤波は……レイテ輸送に……つ、オルモック湾、せっかく、ぐすつ……
 長波姉と……悪イ……藤波、浜波……あたい大丈夫だから。ただ、
 目の前で……今も夢に見るよ。もう、あんな思い、するもんか。

交歓

……ふーちゃんの、ちっちゃ
 い舌が、ちろちろとあたしの
 おまたを、なめてる。時々、
 かわい唇でついばんだり、
 あ……穴に指、入れたりして、
 そのたびにあたし、普段とう
 てい出せないような、自分で
 もびつくりするような声で、
 あえいだ。うれしい、気持ち
 いい、かわい、きもちいい
 ぐるぐる回る。爆撃や機銃掃射の
 嵐から逃げ回ったあの日みた
 いに……でも、これは怖い
 ものじゃない。もう怖くない。
 ふっちゃんも、あーちゃんも、
 なっちゃんも……一緒だから。

秋月型三番艦

涼月

下着姿

皐月「えっちなおねえさん!! えっちなおねえさんだ!!」涼月「あの、私も
 駆逐艦なんですけど……」睦月「じゃあえっちな女の子にや」涼月「えっち
 じやないです……」荒潮「あらあら、こんなにえっちな黒い上下なの?」
 涼月「これはその、色的に気が締まるから」雪風「あと、初月ちゃん
 色だからですね!」前に聞きました!」如月「あら」涼月「お、おユキ
 さん!? もう……」

初月「手加減してやってくれよ。涼月姉さんはどうも押しに弱いんだ」
 皐月「えっちな女の子その2だ!」満潮「み、見た目によらずその……」
 白い、のね」初月「う、うるさい! 五十鈴に押しつけられるんだよ、
 こういうの。いつ脱がされてもいいようにとかなんとかか。涼月姉さん
 何だと思ってるんだあいつ」吹雪「初月ちゃんはなんだと思ってるの?」
 初月「そ……それはその」



秋月型四番艦

初月

胸部装甲・陰部



皐月「す、すーぱーえつちなおねえさんがふたり……」初月「人間きの悪いこと言うなよ……」吹雪「いやいやいやいや……いやいやいや……」涼月「あ、あの何か……きやつ!?」初月「ひゃあ!」睦月「初月ちゃんもただけど、涼月ちゃんもお毛もふさふさなのね」皐月「やつぱり秋月型の子はおねえさんだなあ」涼月「やだ、恥ずかしい……です」荒潮「でもお、お胸は対照的ね。初月くんの、控えめなかわいいのに比べてえ、涼月ちゃんの、照月ちゃんほど大きくはないけどお、えつちな膨らみ方してる……♥」吹雪「この撫で回したいお尻といい、大人じゃくん」涼月「あう……」初月「えい、少しは自重しろよ!」如月「ううん。あなたたちこそ、もう自重しなくていいのよ?」ホラ「涼月「びよっ!?」如月「こんなに……しっとり」初月「ね……姉さん、それ……」涼月「……だ、だって! 私、さつきからもう……!!」

性器

初月「ねえさん、こんなところ
……」涼月「もつと、広げて。
そう……はあ、とても……綺麗」
如月「本当、お毛毛は濃いのに
お豆さんもひだひだも小さめで
ピンク色。ぎやっぷもえ、つて
……」涼月「でも、つて
……」初月「はう」如月「ね、ずつと
こうしたかったの、しょう？」
涼月「……はい。こういうこと
……考えて、ひとりですの、慰めて
……いきました。ごめんなさい
……」初月「ええ、ちな駆逐艦……です」
涼月「いいんです。みんなそう
なんですから。……私も」

放尿

涼月「お願い、へんな子だつて、軽蔑してもいいです、から……っ！」初月
「するもんか、そんな、でも……で、出る！」涼月「ああ、かぶつ、おぶ、あ、
あつ……いっ」初月「ね、姉さんに、お……しっこ、あげて……す、すごい、
すごいっ」涼月「んぐ、ごきゅっ、ごきゅっ、ごきゅ、い、イイ、イイっ……!!!」

涼月「お初さん……見えますか？」涼月の……おまんこ」初月「ぶは」漣「おつ、漫画みたい
に鼻血噴いた」天霧「いやでも……今のは……ドキドキしちゃった」皐月「ほんとにえっちな
よね。それに……すごい、大人の……あそこで、涼月「へん……でしよう？ なんだか、ぐね
ぐねしてるし色も……」初月「……そんなことない。とても……いや、うん……いやらしい、
おまんこだ」涼月「……ッ!!」如月「少し、イッチャった……？ 涼月ちゃん、顔も、下も、
とろとろ……」

涼月「こんな、格好……でっ」初月「こういうのが、いいんだらう？
 飲ませたきや飲んでやるよ……さあ、おじつこ出せよ、姉さん」涼月
 「あ……っ」初霜「あ……涼月さんの、しぶきがキラキラ光ってる……」
 雪風「おしっこ、きれいでおいしそう……」涼月「あああああ」
 初月「すごい、顔だぞ、ねえ、さん……んく、んくっ、ああ、
 たまらない……また涼月姉さんに会えて、こんなことが……できて
 僕は……幸せだ！」涼月「お、はっ、さん……うう、うええん……」

初霜の語る

もともと、涼月さんは初月さんと長いあいだ
 僚艦でした。そのころ、初霜は北方にいて、
 雪風さんは本人いわく「忙しかった」ので、
 あまり当時のお二人のことは知らないんです
 が、……遠慮があったみたいですね。冬月
 さんをさじおいで、お互いを想っていたのか
 そうしたら、初春姉さんが言っていました。
 そんなもの、改めてまぐわえはよかったです
 ですよ。……ちよつと恥ずかしかったです
 今、けど……きつと、そうなるんですよ
 激しく愛し合うお二人を見て確信しています。

Jervis

下着姿

(ヒソヒソ……) J 「What's up? どうしたソ?」吹雪「え!? え、ええと」叢雲「今さら何泡食ってるのよ……西洋の艦娘なんて、もうたくさんいるじゃない。あなた、日本語わかるわよね?」J 「Yeah. あんまりムツカシイのは無理だけど、モリオーガインくらいならpossibly」霞「それ、日本の艦娘よりすごいんじゃない?」吹雪「わかった! そういうことなら、遠慮ナシに行っちゃうね!」J 「ハダカのお付き合いネ! どう? Sexy?」吹雪「いや、もう女そのものというか、下着のちよいすとい最高……」満潮「拜んでる……」叢雲「なんかもう、皇軍の恥だわ我が姉ながら」

胸部装甲・陰部

吹雪「オー! モーレツ!」J 「見えすぎちゃって困るヨ……」睦月「うわあ可愛い……お胸もおまたもつるつるにやしい。睦月の妹たちみたいなのね」如月「ごくり……如月ちゃん、ドキドキしちゃう。ねえ、じゃーびすちゃん、お姉さんどイイことじゃない?」松風「ろりこんしかいないのか」



性器

J「Aweee... How embarrassin...」漣「うおお... おっきなクリ、包皮といい薄っぺたいびらびらといいいちっちゃい穴どいい、完璧なロリまんこ...自分、シコいいっすか？」狭霧「漣ちゃん、あつちで二人でしましようね」天霧「狭霧がすっかり彼岸の彼方へ行っちゃったよう...」吹雪「でもこんなちっちゃい、かわいいあそこをおまんこと呼んでいいものか、特型駆逐艦吹雪、悩ましいであります」J「オ... それって、en... pussyのこと？」如月「あら〜♥ そんな言葉も知ってるのね。お・ま・せ・さ・ん」J「タ、タマタマよ！」



放尿

J「Why? どうしてあたしだけ、toilet なゾ?」吹雪「見たいから!」霞「胸張って宣言すること?」初春「興味があるなら素直に見たらどうじゃ、如月「ねえ、じゃーびすちゃん、向こうのおトイレの使い方、如月たちに教えて? おまた広げて... はつきり見えるように...」J「うう、絶対知ってるくせに... oh, pee pee... 出るワ」睦月「あつちよろちよろつて... もっと思いきり出しちゃお? おなかなかでたげるにや、そう、しゅーつて... すごい、おしつこの匂いが、えっち...」J「I feel hot!」如月「終わり? いっぱい出たわねえ。かわいかったわ... 後始末、しましよ?」

自慰

如月「こういうことは、まだだったのね。見ていて、なんとなくわかった?」J「こ... ころ... あ、あつ」如月「もう気持ちいいところ見つけた? さすが、らつきー・じゃーびすちゃん」J「そういう... 意味じゃ、ない、もん、あ、あ」荒潮「すごい、こんな可愛いおまんこがとるところに... あなたも、教えるの上手いわねえ... 興奮しちゃう」如月「今度、する?」J「あ、あ、comin...」吹雪「... じゃーびすちゃんかわいくて... 見ながら、シちゃつた...」



Ташкент

下着姿

「Боже, мой! なかなか……この艦隊は、刺激的だね、Верушка!」ヴェルルーシユカとロシア語の愛称で私
 ヴェールヌでも響でもお好きに呼ぶ長身の少女が、白い頬を薔薇色に染める。その下に続く白い
 肢体に、これまた真紅（深い意味はないと信じた）の下着が映える。そのシンプルなデザインで、大半
 の巡洋艦と肩を並べてしまふ彼女もほんの子供なんだと、妙な安堵を覚え……私は、ひそやかに興奮する。
 「Вы, обязательно... Голубой крейсер, Ташенька!」わざと「空色の巡洋艦」と呼んだあと、ヴェルルーシユカ
 に対抗してターシエンシカと呼びかける。少女の顔がぱあっと輝いて、私は少し幸せになる。

胸部装甲 陰部

どうだい、綺麗だろう。いくぶん
 誇らしく、ターシエンカの白い裸
 身にわが身を寄せる。最近すつか
 り駆逐艦寮のスケベ番長と化した
 特型の長姉（尊敬しているとも!!）
 が、目を爛々と輝かせて身を乗り
 出す。ご期待に添えようとばかり
 隣の少女のよく発達した乳首を、
 自分のささやかな胸に押しつける。
 さらに、髪よりも濃い黄金色の下
 生えをそろりと撫で上げてみせる
 と、姉は……伏して拝みはじめた。
 ……尊敬、しているとも。



性器

艦娘の身体というのは厄介で、こっちの都合にお構いなしに突然成長してしまったりする。急に六駆で一番大柄になって、見た目が日本人からかけ離れて、その…毛まで生えてしまったときは心がついていけず、しばらく引きこもって泣き暮らしたものだ。いつづつこの大柄な少女は、人間の姿で現れた当初から、少しばかり自分の身体を扱いかねていたようだった。なあちっこの、うちのちっこの、お相手をしてやってももらえないか…なんて、でっかい友達から神妙にお願いされたのはわりと最近のことだ。どこか所在無さげな、アムモンド色の瞳に、同じ匂いを嗅ぎとって…こんなところの匂いを嗅ぎあうようになるまで、あまり時間はかからなかった。そういう相手をしろと言ったつもりはないんだが…と、耳まで赤く染めたでっかい同志にぼやかされたものである。仕方ないじゃないか、だってターシエンカはこんな、「Твой… очень сексуальна!」「どう見て言っつてんのさ… Ты похабная」くばあ、と広げてる「Твой пизда だよ…とはさすがに言えない。特型の長姉とは違う。でも、この意外に未発達な…舐めたい…すごく、興奮する…ここから出る、おじっこ…ほしくなる…」「Верушка…する？」

放尿

ターシエンカの…割れ目から飛び出すおしっこ、私の出すおしっこが交差して、お互いをびしゃびしゃと濡らしていく。綺麗…なんて、虚飾するつもりはない。むおつとアムモニア臭がたちこめて、そして私たちはひどく高ぶっている。おしっこは違う白濁汗がにじみ出る。身体も心もであます駆逐艦娘の悪くて貴い遊びだ。

情事

指でシてあげたあと、ターシエンカはいつもしくしくと泣く。最初は中を傷つけてしまったのかと取り乱してしまっただけ、本人もわけがわからないらしい。ひとしきり泣くと、とても幸せな心地だ。昔の記憶に由来するんだろうか。どうあれ…私が幸せに、できるのなら、なんでも、あげたい。

Samuel B. Roberts

下着姿

睦月「にゃー！かわいい！」如月「戦史に名前を残すすごい武勲艦だつて知ってるけど、これは……ね、お姉さんたちと脱ぎっこして遊ばない？」S「OK、いいよ。まず、ぱんつ見せるんでしよう？」松風「つく、やばい……ろりこんじゃない、子供ぱんつかわいい、僕はろりこんじゃない」時雨「もう遅いだろ。君も開き直ろうよ、ね？」皐月「かわいいけど、どうして上脱がないの？」S「えっ……だつてunderwearはぱんつだから……上脱いだら裸だもん」霞「っ!!」初春「あの霞が鼻血を……これは手ごわいのう。吹雪は……無事死亡かや」

胸部装甲・陰部

S「ホントに脱いじやつた……ど、どうかかな？」雪風「ど、どうして雪風まで……」吹雪「あーやばい。やばい。私天才かもぱろり(大)いとろり(小)が並んで……おっぱい(小)とおっぱい(無)、割れ、目(無)と割れ目(無)が……心のおちんちんが射精止まんないよう」叢雲「もう沈めたいわコイツ」





性器

S「ふ、ふええ……脱ぎっこ、すごいよう……」如月「シクッ、じやーびすちやんに続いて異人さんの子供おまんこ……睦月「如月ちゃんまで鼻血出してるにや……でもすごい……ちつちやくてかわいくてえっち……」阜月「睦月姉も鼻血だばだばじやん……でもボクもドキドキしちゃうな、これ、自分でさわったことある？」S「N、no!だっこ、pissing portでしよう？」連「あ……これあかんやつや」狭霧「まだ……早いですよ、ね」S「ン……言ったら、おしっこ……したくなってきちゃった」雪風「……じゃあ、雪風と……いっしょに、しませんか？」

放尿

最近急に色気づいた、なんて言われながら、サムちゃんと二人でばんっおろしてしやがんで、しいー……って連れしよんです。島風ちゃんや谷風ちゃん、時津風ちゃんなんかとよく飛ばしっこしてたけど……、ほんとはえっちな気分になってたんです。今も……サムちゃんのおしっこ出してらおまたがすぐくえっちで……吹雪ちゃんはただの思いつきだったみたいですけど、サムちゃんも覚えていなさそうですけど、雪風は……知っています。サマル沖で、矢矧さんと雪風たちが奮戦の末ボロボロになった彼女に、止めを刺したことを。どんなふうに接すればいいか、ずっと迷って、ひとりで泣いたりしてたけど……簡単なことなのかもしれないですね。あ、雪風とサムちゃんのおしっこ溜まりが、合体しました！

※登場キャラの被る『改二編 弐』『海防艦編』へ続く（年内頒布？）

おしっこれくしょん 駆逐艦編 六
Combined Fleet Girls Collection FAN BOOK Vol.23

発行日 2018年06月03日

発行サークル LUNATIC PROPHET
pixiv id=92903

発行人 有村悠 Yuu Arimura
e-mail edgeoftheseason@gmail.com
twitter id=@lp_announce

印刷所 株式会社 くりえい社
web <http://www.kurieisha.com/>

produced by Lunatic Prophet
2018.06.03.

これで、イッてみまショウ!